**「居宅介護サービスの提供体制の充実について取り組めること」**

奄美地区地域自立支援協議会　第３回定例会　　令和６年１月１８日

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 1. できそうなこと
 | 1. 具体的な方法
 | 1. 役割分担等（※課題）
 |
| 【ヘルパー人材不足】・時間指定のサービ提供 | ・どれくらい不足しているか、地域別の調査・分析する | ・必要な地域と人数を事業所から出す・市町村で調査分析 |
| ・学生ボランティアに各事業所の体験 | ・アルバイト、ボランティアの募集を高校や専門学校へ、まずはきっかけ作りの場。・学生さん（奄美高校等）と調理コラボ | ・協議会が窓口となり各事業所のアルバイトやボランティア募集をまとめて各学校へ案内する。 |
| ・中学、高校、専門学校への仕事紹介 | ・仕事内容の経験談を話す、動画配信・経験者がやりがいを語る。介護を受けて自立した生活を送る人の体験談、動画。・資格取得に対する補助金の活用・居宅介護の実習体験・事業所へ紹介、就職までサポート・学生と直に関われる場をつくる | ・講話、動画協力→ヘルパー、介護事業所・周知広報→協議会・補助金→県、市町村等・事業所紹介→市町村のLINEを使う |
| ・民生委員の有償ボランティアの仕組み | ・民生委員名簿を利用者へ情報提供・障害特性を理解した上で接する。 | ・民生委員から有償ボランティアを紹介する。・民生委員への障害特性理解の研修を開催・具体的な提供サービス、支援等の説明会 |
| ・制度外の支援も選択肢（有償ボランティアや地域住民等）に入れる・「誰でもできるけど、誰かがしてくれるとありがたい仕事」キャッチフレーズで地域貢献になることを広げていく。 | ・有償ヘルパー等の周知、案内・サービス利用計画作成時に丁寧に説明して公的以外のサービスの利用も検討する・見守り、声掛けは民生委員や地域住民のボランティアを活用する。・看護師やヘルパーのOB等による服薬支援など、ちょっとした支援、ヘルパーの隙間を埋める。・団塊の世代の活用 | ・協議会・相談支援専門員・民生委員、地域住民・社協で養成研修・ヘルパー以外のボランティアや地域住民の交流の機会つくり |
| ・ヘルパーの家事援助の軽減 | ・ヘルパー、冷蔵庫にあるもので調理する・弁当屋の配達、総菜の利用・障害者への配食サービス・家事援助はシルバー人材に委託・元気な高齢者の活用・ヘルパーの仕事内容を掃除支援と調理買物支援に分け、調理が苦手な人は、掃除支援として働けるようにする | ・市町村が元気な高齢者へ広報・市町村からシルバー人材へ委託・ヘルパーがいない地域は行政がサービス提供する※家事（調理）が負担で若い人は働けない、敬遠する。 |
| ・離島応援ヘルパー（都会からの人材）・福祉に関する求人の拡大 | ・奄美大島雇用創造協議会「UIJターン相談会」や合同企業説明会へ参加する機会、PRを各事業所に案内する。・協議会に情報が集まり、働ける人のリストがあり、市町村を超えたマッチング機能 | ・市町村・協議会 |
| ・居宅介護事業所（ヘルパー）持続可能となる取り組み・他職種との比較 | ・移動距離に応じた報酬、ガソリン代の支給・多職種と仕事内容、報酬、昇給の比較分析し、福祉の報酬の底上げ。 | ・県、市町村※補充しても継続してもらえるか※需要と供給のバランス |
| 1. できそうなこと
 | 1. 具体的な方法
 | 1. 役割分担等（※課題）
 |
| ・センターキッチン・下処理したもので在　　宅の方が学べる仕組み | ・就労Ｂとコラボレーション・年１回でも子ども食堂のようなところが調理（炊き出し）。普段から機能していることで災害時も役立つ。・ | ・Ｂ型事業所同士で食材担当、調理担当と分担する・子ども食堂のようなところ・協議会が就労Ｂ同士をつなぐ機会をつくる（立ち上げる）・事業所で初めてみて少しずつ事業所の垣根を超えてやっていく近い地域同士の事業所でやっていく |
| ・キッチンカー | ・各事業所から人を集めて調理する・高齢者で働きたい人に・自衛隊にノウハウを学ぶ・食材保管庫 | ・キッチンカーは市町村が手配したり、クラウドファンディング。・シルバー人材の活用・食材保管は、市町村と連携する（青果市場や地元スーパーの備蓄と連携するなど）。 |
| 【利用者への働きかけ・利用について】・利用者へサービス利用の説明、本来の目的の理解を促す。 | ・相談員のアセスメント力の向上・モニタリング、ニーズの明確・可能な限り自立に向けた支援 | ・協議会 |